

合併合同特集



能登半島地震 災害ボランティアセンター支援者の思い

1月1日の発災当初からこれまで、市町社会福祉協議会は災害ボランティアセンター（以下、災害VC）の運営に全力で取りくんできました。自分たちの力で、時には様々な関係者からアドバイスをいただきながら、休むことなく災害VCの運営を行っています。

また、頑張る社会福祉協議会（以下、社協）、地域を応援するために、これまで多くの方々が、ボランティア（以下、V）活動、災害VCの運営等支援のために県内外より駆けつけてくださり、地域の復旧・復興に大きな力を与えてくれました。

今回の特集では、各市町災害VCで支援に入っていたいただいた方々に、社協や地域に対する思い、また、今回の支援を通しての気づきについて伺いました。

珠州市

活動内容

災害V活動支援プロジェクト会議（以下、支援P）の活動として
災害VC運営支援、被災者見守り・相談支援事業等の支援



BIGUP 石巻・阿部 由紀さん

Q 支援者の立場から感じる、初動時から現在までの変化を教えてください。

昨年5月の地震災害から珠州市社協と繋がりがあったので、発災直後に宮城県を出て1月4日に珠州市に入り、地域の状況を確認して回りました。

発災当初、DMAT（災害派遣医療チーム）など支援者が住民の命を守ることを最優先に必死に活動している姿が地震の規模の大きさと過酷な被災状況を物語っていました。

命を守る急性期を越えて、災害VCで少しずつ片付け等のVニーズに応じてきていますが、高齢化率の高い地域で住民が広域避難している状況もあり、今後も細く長い支援が必要と感じています。

現在は、震災から半年近く経過し、住民がこの先も住み続けるのか判断に迷う時期だと思っています。未だ水道等の復旧が進んでいないこともあり地元に戻りきれない人たちも多くいる中で、今後は地域のコミュニティ再生や新たな社会資源の創造等が必要だと思っています。

Q 支援者として大切にしていることはありますか。

支援者はいつか居なくなる存在であり、この先も住民に寄り添って活動していくのは地元社協の職員の皆様です。

社協は、これまで経験したことのない大規模災害を機に地域づくり（コミュニティ再生）を行っていくことになるかと思いますが、私はこれからも支援者として、市全体で立ち上がっていけるような支援の在り方を職員の皆さんと一緒に考えていきたいです。また、今回の災害での経験を次世代に繋いでいく体制づくりも大切だと思っています。

輪島市

活動内容

ニーズ受付、全戸訪問、現地調査、災害 VC 業務



高浜町社協・河牧 剛さん

Q 2月に初めて派遣され最初に感じたことはなんですか？

当時、上下水道等のライフラインは復旧しておらず、食事は支援物資のレトルト食品、カップ麺。住む家を失い避難所や社協事務所で寝泊まりする職員もあり、心身共に疲弊していたと思います。

そんな中、災害VC開設準備と並行し、住民の困りごとの解決につながるよう、地域の見守り活動に取り組む輪島市社協職員の姿から、自身も被災者でありながらも、地域のためにと一歩ずつでも前に進んでいくという気概を感じました。

Q 5月の2度目の派遣時に感じたことはありますか？

ライフラインは一定数普及していたものの、崩壊した家があるままであったり、街の様子はあまり変わっていないように感じました。

大変な状況の中でも、災害VC（3地区：輪島・門前・町野）については、輪島地区で毎日Vを受け入れたり、週末に3地区同時VC開設が行えるような体制が構築できたのは、社協職員の日ごろの取り組みの積み重ねによるものだと感じました。

応援社協との結びつきを大事にしなが、各職員が災害VC業務・被災者支援を「地域のために」と自覚をもって取り組んでおられ、ここからどのように立て直し復興させていくか、「これからの輪島市社協をみてほしい」という強い気持ちが伝わってきました。

能登町

活動内容

支援Pとして災害VC立上げ支援、運営全般支援



長野県社協・山崎 博之さん

Q 支援者の立場から感じる、初動時から現在までの変化を教えてください。

1月6日に開設を表明後、まずは避難所や民生委員へのアプローチを地元社協職員が行い、被災者の声を集めました。避難所から自衛隊風呂への送迎支援を展開しながら、センター始動の準備が行われました。

そして、1月下旬に地元の消防団、日赤奉仕団、防災士会、V連絡協議会等の力を集結して、V活動を始動しました。

2月からは県のVバスの受け入れも始まり、町内に3つの拠点を設けて本格始動となりました。徐々に外部からの応援体制も整い、ゴールデンウィークには活動のピークを迎えながら、現在も継続しています。

Q 能登町災害VCのここがすごい！と思ったことを教えてください。

合併する前の3地区（能都・柳田・内浦）に拠点を設け、数少ない地元社協職員と応援スタッフが連携してセンターの運営をしている点です。日頃から築いてきた地域との信頼関係を元に、それぞれの地域性を考慮しながら、各拠点の運営が展開されています。

また、依頼先への送迎や現地調査の機会を活かして、地域や被災者宅への訪問による支援を徹底し、きめ細やかにニーズの把握を行っています。

この他、重機や専門器具を使う技術系NPOとの連携が各拠点単位で行われており、被災者からの相談に対して受け止められる幅が広がるなど、被災者の声を丁寧に拾っているところがあげられます。

穴水町

活動内容

災害VC 生活支援部門を担当

認定 NPO 法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野 愛さん



Q 支援者の立場から感じる、初動時から現在までの変化を教えてください。

NPO団体はじめ、専門性のある方々に協力いただけていることが増えたところです。

発災当初、道路状況も悪く、水道をはじめとしたライフラインも整っていない状況で、支援に入ることも本当に厳しい状況でした。そんな中、発災から10日目で災害VCが立ち上がり、復興に向けて進む中で、以前は諦めてしまっていた課題が克服できるようになってきたことを実感しました。

例えば、屋根のブルーシートに関するVの依頼や、ブロック塀の倒壊に関する案件といった、建築士をはじめとした専門家の力が必要なケースにも対応が可能となり、災害VCが対応できる幅が広がったと感じました。また、支援者と町社協、そして行政との信頼関係によって、情報共有、連携ができ、幅広い支援活動を進められていることにも大きな変化を感じました。

Q 穴水町災害VCのここがすごい！と思ったことを教えてください。

外部からの支援を断らず、町内のニーズに結び付けていたところがすごいと思いました。

Vの依頼はもちろん、穴水町で被災者支援をしたいという声など、たくさんの声がこの災害VCには寄せられていました。特に支援者からいただく声はなるべく断らず、ローラー作戦など、様々な方法を用いて、被災者そして穴水町に支援が届くよう、ネットワークを駆使し、細やかな調整を行っていました。

そのおかげで依頼した方はもちろん、支援に来てくれた方々も笑顔で活動を終わらせていました。穴水町全体に「支援の輪」が広がる様子にとっても感動しました。

七尾市

活動内容

七尾市災害VC運営支援
近畿ブロック派遣者



神戸市社協・長谷部 治さん

Q 能登半島地震で感じた災害VCの特徴はなんですか。

今回の災害VCで目立ったのは、ICTを利用した効率化ではないでしょうか。特に、キントーンを利用したニーズ管理とバディコム（インターネットを利用したトランシーバー）を使った活動は、今後の大きな可能性を示しました。

遠隔地から短期間で派遣される私たちが現地で有効に機能するためには、正確な情報管理と伝達が重要です。これらのICTツールを積極的に活用することで、現地災害VCと遠隔地の県社協がスピーディな情報伝達と支援を実現しました。

さらに、近畿ブロックとして作成した事前オリエンテーション動画をV活動者に事前に視聴してもらうことで、Vバスに乗る前に準備を整えることができました。これもICTツールを効果的に活用した今回の特徴です。

災害VCの運営は、新しい課題が日々発生する難しい活動です。しかし、新しいツールを柔軟に取り入れ、活動を改善しようとする姿勢が、「ほっておけない」という気持ちで現地に駆けつけてくださるVの皆様の力を、被災された皆さんに届けることに繋がっているのではないのでしょうか。

志賀町

活動内容

ホームページの管理やフェイスブックでの情報発信、
そのほか印刷物などの告知物の制作



志賀町民生委員、イラストレーター
小野口 雅人さん

Q 支援に入られたきっかけはなんですか。

町の民生委員・児童委員でもありましたので元々社会福祉協議会とはお付き合いがありました。立ち上げの際、見せられたチラシにダメ出しをしてそのまま手伝う羽目になりました。(笑)

なにぶん全てがイレギュラーで進行しますので、製作物も特急進行がベースです。本当に大変でしたね。

Q 広報にあたり、気を付けている点を教えてください。

「広報」をしていたという自覚はありません。どちらかが一方的に喋っている状況を会話とは言わないように「広く報(しら)せる」だけではコミュニケーションは成り立ちません。社協の広報に、もう少しマーケティングの視点が入るようにとりあえず自分ができる範囲で形にするよう努めてきました。

さいわい、町の「ゆるキャラ」を使う許可をいただけたので、フェイスブックはブランディングを意識して毎日更新していました。言いたい放題、やりたい放題だったにも関わらず、それをさせてくれた社協や「毎日見ている」と言ってくださった方々には本当に感謝しています。

中能登町

活動内容

中能登町災害 VC 運営支援 等

トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部 高木 陽一さん



Q 支援に入られたきっかけはなんですか。

発災直後、被害の大きい奥能登エリアへの支援を検討しましたが、道路状況や宿泊場所の確保など難しく、宿泊場所が確保できる中能登エリアを検討していたところ、支援Pより中能登町社協に災害VCの立上げ支援のニーズがあると聞き、中能登町への支援を決定しました。また、福岡県で災害VC立上げの経験を持つトヨタ自動車九州(株)とともにトヨタグループとして支援を始めました。

Q トヨタグループの災害への取組みを教えてください。

2018年に、近年の自然災害の頻発と被災者の避難形態の多様化を背景に、自動車メーカーのリソース(資源)や本業で培ったノウハウを最大限に生かした災害復旧支援「TDRS (Toyota Disaster Recovery Support)」を立上げました。現在、災害の発生時には、①災害ボランティア支援、②災害VC運営支援 ③モビリティ支援 ④車中泊避難支援に取り組んでいます。

Q 支援を経て、石川への思いをお聞かせください。

自然が好きで、能登のキャンプ場にこれまで何度も訪れました。今回、能登の状況を目にした時は驚きや衝撃を受けましたが、自分たちが被災している状況にも関わらず、他人を気遣う皆様の心の温かさに触れることが多く、心を動かされました。一日でも早い復興を願っています。

羽咋市

右から
 ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ 糸岡 栄博さん
 香川レスキューサポートバイク 岡田 想さん
 和歌山県湯浅町社協 阪井 達夫さん
 奈良県社協 中川 恵子さん



Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

【香川レスキューサポートバイク 岡田さん】

宿泊場所の確保が難しいと分かっていたので、車を拠点に寝泊まりしようと思っていたところ、たまたま羽咋市に住んでいる石川レスキューサポートバイク代表の寺島さんが「うちの部屋に泊まってもいいよ」って言って下さったんです。初対面だったのにその日の夜に泊めてくれて、羽咋の人って本当に優しいなと思いました。その日から来るたび毎回泊めてもらっています。寺島さんの家に泊めてもらったからこそ、僕も長期で支援させてもらうことができました。

【奈良県社協 中川さん】

現地調査でお宅にお邪魔させてもらった時に、市民の方が「遠いところからありがとう」と言ってくださって、「奈良のあそこ行ったことあるよ」とか、「親戚が奈良で働いてるんだよ」って、いろんな繋がりがあのお話をしてくださって、私たちが凄く元気をもらったことをとても覚えています。

Q 羽咋市民に向けたメッセージをお願いします。

【ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ 糸岡さん】

復旧という意味での災害Vは一段落しつつあると思いますが、復興にはまだまだ時間がかかると思います。私たちはこれからもずっと羽咋の皆さんのお力になりたいと思っていますので、また訪れる機会をいただけたらとグループ一同強く思っています。

【湯浅町社協 阪井さん】

羽咋市民の皆さん全員が心から笑えるようになったときが、本当の復興だと思います。地元社協職員のみならず、今まで支援に入った社協職員全員、必ず支援を続けていきますので、皆さんも負けずに頑張ってくださいというのが僕の思いです。羽咋の皆さんが大好きです。

かほく市

活動内容

V Cの受付、V名札作成、V保険加入確認、被災者宅でのV活動、地区の訪問活動



石川県立看護大学 災害ボランティア・サークルふたば

Q 活動中は、どんなことを心がけましたか？

市民の方とお話するときは、地震で壊れたしまった家具でもその方にとっては大切なものなので、捨ててしまうものであっても「ゴミ」とは言わないようにしました。また、発災当時のことなど地震のことはあまり聞かず、趣味や食べ物、地域の話テーマに住民の方が少しでも楽しく、心が軽くなるように心がけてお話ししました。

Q 今後、どのような活動に繋がっていきたいですか？

私たちは、看護大学なのでその特色を活かしたサロン活動や健康観察、あとは学生としていろんなアイデア出して、地域の方が健康で元気に地元で暮らせるような取組やイベントを実施していきたいです。

今回の地震でのV活動をきっかけにふたばへ加入したメンバーもいます。新しいメンバーたちの意見も聞きながら、学生だからこそできることややってみたいことを形にできたらと思います。

また、地元で起きたことを忘れないよう、風化しないよう「能登に一番近い大学」として、継続して支援していきたいです。

宝達志水町

活動内容

被災者宅でのV活動、物資支援 等

宝達志水町商工会青年部 部長・武内 翼さん



Q 支援に入られたきっかけはなんですか。

発災直後から、青年部として地域をサポートしたいという思いがあり、発災2日目からしばらく、避難所での炊き出しを行っていました。それまで社協とはつながりがなかったのですが、町会議員を通して社協が困っていると相談があり、連絡を取り始めました。

聞くと、被災者からVニーズは上がっているが、今の段階（発災直後）では、県内外からVに来ていただいても、うまくマッチングできない可能性が高いので、まずは町内でVを募りたい。力を貸してもらえないかとのことでした。そこで、青年部員、部員のお店のお客様や友人などでV活動に関心のある方を募り、活動を行うことにしました。

Q 災害V活動された感想や今の思いをお聞かせください。

Vへ行く先々で感謝していただけますが、地域のためになにかしたい！という思いで溢れていたのも、その思いと合致する社協さんと出会い、活動の機会をいただけたことが逆にありがたかったです。充実感もありますし、活動をしたいけど踏み出せない方に、ぜひ一歩踏み出してと伝えたいですね。

災害時だけに限らず、社協が普段、地域住民や困っている方のために様々な事業を展開していることも知れました。このご縁をきっかけにこれからも社協とつながり、さらに地域へ貢献していきたいです。

内灘町

活動内容

災害VCの受付、
送り出しのオリエンテーション 等



地元ボランティア
竹本 優子さん

Q 活動を始められたきっかけはなんですか。

災害支援に関するV活動の経験はゼロでしたが、町の被害を見て、町民として何かお役に立てればと、町社協ホームページからV登録しました。

初めは避難所の清掃等を行っていました。2月下旬に町社協の方から運営スタッフをしてみませんかとお声がけをいただき、災害VCで活動し始めました。

Q 運営スタッフとして活動をされていかがですか。

Vの方々が怪我無く無事作業を終えられるように、運営として注意事項伝達の重要さを感じます。

また、気持ちよく活動していただくためにセンターでは明るい挨拶や声掛けを心掛けています。

これまで県内外から多数のVの方々にご協力いただいています。皆さん本当に精力的に活動していただき、複数回参加いただいている方も沢山いらっしゃって大変有り難く思っています。今後もスタッフとして活動を続けていくとともに、これまで災害VCの運営に関わっていただいた方々の思いもすっかりつないでいきたいです。

加賀市災害ボランティアセンターの活動

地震により被害を受けた加賀市では、1月3日より災害VCを開設し、1月6日からV活動を開始しています。災害発生後、県社協職員も状況確認と災害VC開設支援に向かいましたが、その時に「加賀市も大変だけど、能登方面はもっと大変な状況なのは分かっているよ。加賀市は地域で協力しながらできるだけ頑張るから大丈夫だよ」と頼もしい言葉をいただきました。オール石川で頑張ろうと、県社協も背中を押されたような気持ちになりました。



二次避難所で食事をふるまいます。



企業の方も支援に駆けつけてくださいました。

現在は、災害VCを閉所しましたが、通常の社協VCとして、地域の団体等と連携し、二次避難者の支援にあたっています。

災害関係情報専用の Facebook を開設しました！

石川県社協では、今回新たに災害ボランティアや災害支援などの情報に特化した Facebook ページ「災害情報@いしかわ」を開設しました。

6月28日（金）の初投稿からフォロー等、多くの反響をいただいております。

これから、災害にかかるいろいろな情報や話題を発信していきますので、定期的に見に来ていただくと嬉しいです。

是非ページに「いいね！」をよろしくお願いします。

【Facebookページ】



災害情報@いしかわ



石川県社会福祉協議会

災害ボランティア活動に行く際は、

事前にボランティア活動保険(天災・地震補償プラン)へ加入しましょう!

この度は令和6年能登半島地震に際し、全国の皆さまからの温かいご支援ご協力に心よりお礼申し上げます。

ボランティア活動保険は、活動中のボランティア自身のさまざまな事故によるケガの補償、また、被災された方の住宅での活動中に、誤って被災された方が大切にしていた家具や置物などを壊してしまった場合などの損害賠償責任も補償します。

加入手続きは、お住まいの地域(出発地)の社会福祉協議会で行うことができます。

復興に向けて尽力している被災地の負担を少しでも軽減させるため、可能な限りお住まいの地域で加入ください。

また、出発地の社会福祉協議会で事前に保険に加入しておけば、被災地までの移動における事故も補償対象となるので安心です。

補償プランは2種類ありますが、**活動中の余震に備え、「天災・地震補償プラン」に加入する**ことを推奨します。

※地震、噴火、津波に起因するケガをカバーするための「天災危険担保特約」を付加したものが「天災・地震補償プラン」になります。

! このような事故・ケガが増えています!

- ・災害ゴミ集積場で釘のついた木材を踏み抜いてしまい、足裏をケガ
- ・地震で割れた食器の運び出し中に、破片で腕や足のももを切ってしまった
- ・被災された方のタンスを運搬中に地面に強く落としてしまい、タンスが破損
- ・地震で壊れ使えなくなった家具を搬出中、被災された方の自宅玄関に当たり、玄関ドアが破損

保険加入はボランティア自身への備えであるとともに、被災された方々が安心してボランティアに支援を依頼できる備えでもあります。

安心してボランティア活動を行うためにも、ボランティア活動保険に加入しましょう!

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和6年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任	特定感染症		補償開始日から補償 ^(*)		
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)